

管釣りで見かけたこんな人(コラム)

誰しもフライフィッシングを始めた当初はやる気と興奮と期待が入り交じり、それはそれは色々な想像が巡るめく楽しい世界であるが、その前のめりな気持ちがいざ釣りを引き起こすのも事実。人ごとではないが、管理釣り場では期待を込めすぎて様々な失敗が起こっている場所で、人間ウオッチングしていても飽きることはない。ある管理釣り場ではこんな光景があった。

都内にある管理釣り場(ボツだから書きちゃうけれど朝霞ガーデン)に、颯爽と現れた赤い外車。ドアを開きすつと降りた女性。車のハッチを開けて早々に着替えを始めた。目深にかぶったキャップに偏光グラス、おろしたてのベストやロッドにリール。そしてウェイダーを履き、その姿はフライフィッシングウーマンと呼べる完璧な出で立ちであった。タックルセットの復習もばっちりです。早く済ませ、車のドアを閉めると足早に水辺へと向かっていったのだが、ここで初めて周りの景色が目飛び込んできた。その管釣りは都会のご真ん中にある、コンクリ



ートに固められたハコ型の管釣り。もちろんウェイダーなどいるはずもなく、彼女は持っていたタックルを早々にしまい、恥ずかしそうに帰ったそうである。その様子を一部始終見ていた釣り人は口をあぐり開けたまま、声も出なかつたそう。彼女はフライフィッシングのイメージそのままにきたのだろうが、かたやTシャツに短パン姿の人を見て、さぞやビツクリしたことだろう。

この他にもフックキーパーにラインを通して、飛ばないと悩んでいる人や、リールを逆さまにセットしている人、ウェイトフオーワードラインを逆さまに巻いている人など。私はどうかといえ、未だにポイント目の前にするとガイドを二つとばしてラインを通したまま魚を追い回していたりするありさまであるから、他人事ではないのだ。一人の時間を楽しんでいる人へとは余計なお節介かも知れないが、見て見ぬ振りより教えてあげた方が、本人のためであり一時の恥で済むのである。それにしても私を含めて釣り人というものは、どうしてこんなにもせうかちで前のめりの人が多いのだろうか。いくら急いだところで管理釣り場の魚は、遠くへ逃げたりしないのに...